

## 編集室

## 春過ぎて夏来たるらし～

新型コロナウイルスに振り回されたこの数カ月であったが、何とか終息への兆しが見え始めたこの頃、引き続いて気を緩めず、自主規制を心がけたい。

さて、私の県医師会生活もわずかとなった。思えば高校の先輩で整形外科同門の元県医師会長 福原照明先生、同じブロックの大先輩で内科医 柚木宏先生のご推薦で広島市医師会の理事に立候補したのが医師会との関わりであった。

看護学校担当となり、神戸への船旅の修学旅行にも同伴したが、今でも私の病院にはその時の学生が看護師(病棟主任)として働いている。他にも、その頃の学生で当時外来で1人黙々と診察室の私に背を向けて洗いものをしていた姿が印象的な准看護師の彼女は今は外来主任である。当時の広島市医師会の看護学校は医療高等課程(准看護科)のみで1学年450人という全国屈指のマンモス校であった。当時隣県の岡山は既に准看から正看へとシフトしており、我々も医療高等課程のうち100名を医療専門課程(正看護師科)とした。しかし、今はその定員確保がままならない状態である。

今は亡き「手の外科の世界的権威」であった恩師津下健哉教授より「医者には社会的活動もせねばならない」との励ましの言葉と「私は教室の医局員を同僚と思っている」との驚くような内容のお手紙を頂いた。その言葉は私の医師会活動の支えとなった。

私の成した仕事といえば、碓井前会長を引き継いでの県医師会館の新築(2015)、定款改

定・諸規則諸規程を制定、「定款及び収束集」(平成26年6月)の発刊である。私はその序文に『発刊に寄せて～「医の倫理と医師会」』と題して、緒方洪庵、富士川游、志賀潔、永井潜(1876-1957・広島県竹原出身)等我が国の日本の医の倫理の歴史を紹介し、日本医師会更には広島県医師会の医の倫理への取り組みを紹介した。即ち広島県医師会では1962年皆川尚常会長時代の「医師倫理の確立(第1次倫理委員会)」より始まり、1992年(福原照明会長)第2次倫理委員会では「近代医療と生命倫理」の発刊、1998年(真田幸三会長)第3次倫理委員会では「続・近代医療と生命倫理」、「続々・近代医療と生命倫理」の2冊を出版したが、2000年「医療と倫理を考える会・広島」の発会。その後は桑原正彦代表のもと「医の倫理を考える会・広島」は102回例会後に県医師会に事務局を移し、その活動は継続されている。思い起こせば2012年第20回IPPNW核戦争防止国際医師会議世界大会の広島開催や碓井前会長時代のIPPNW世界大会(北京・ヘルシンキ)への参加も懐かしい思い出である。

なお、毎週の理事会挨拶に手を加え、「私の哲学」と「失敗力」という2冊を出版出来た。私が充実した医師会活動が出来たことは医師会員の皆様、中でも理事、常任理事の皆様、地区医師会、事務職の皆様のおかげであり、心から感謝申し上げお礼の言葉とさせていただきます。有難うございました。

これからも毎日京橋川畔を歩きます。

(平松 恵一)

## 広島県医師会速報 2020年(令和2年)5月25日

- 発行所／一般社団法人 広島県医師会 〒732-0057 広島市東区二葉の里三丁目2番3号 TEL:082-568-1511 FAX:082-568-2112  
広島県医師会HP <http://www.hiroshima.med.or.jp/> E-mail:kouhou@hiroshima.med.or.jp
- 編集者／広島県医師会長 平松 恵一  
(広報委員)山中 祐介、小園 亮次、加世田ゆみ子、小山 祐介、隅田 昌之、田中 民江、谷 充理  
津田 敏孝、檜山 桂子、正岡 良之、吉田 良順、桑原 正雄、岩崎 泰政、藤井 康史
- 印刷所／レタープレス株式会社 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809番地の5 TEL:082-844-7500 FAX:082-844-7800